

◎「自然災害碑」「あしずり遍路道」石造物調査！

先日9月27日(火)～28日(水)の2日間、「自然災害碑」「あしずり遍路道」の石造物調査を濱田眞尚氏(元高知県立歴史民俗資料館副館長)と唐岩淳子氏(南国史談会副会長)が調査にあたった。この2名の方々は、本市が市史調査協力員(市史執筆協力員兼任)として委嘱している研究者であり、中世石仏等の全県の悉皆調査も精力的に行っている方々である。

調査では市内に点在している自然災害碑のうち、拓本等を取っていない石碑の汚れを丁寧に落とし、拓本を取った。過去に肉眼で判読・翻刻はしていたが、その文字の読み間違いを何点か確認することができた。27日、午前中は高知新聞清水支局・小笠原支局長の取材を受けていたが、お昼近くに突然の雷鳴、線状降水帯と思われる豪雨が1～2時間降り続いた。

ちょうど、市野瀬地区の消防屯所横にある水害碑の拓本を取っている最中であつた。傘を差し、取材の小笠原支局長にもお手伝いいただき、なんとかその拓本を取り終えることができた。緊迫した拓本作業であつた。この拓本は、『新市史・資料編』に翻刻とともに掲載していきたい。乞うご期待！



↑市野瀬地区集会所前の復旧記念碑拓本



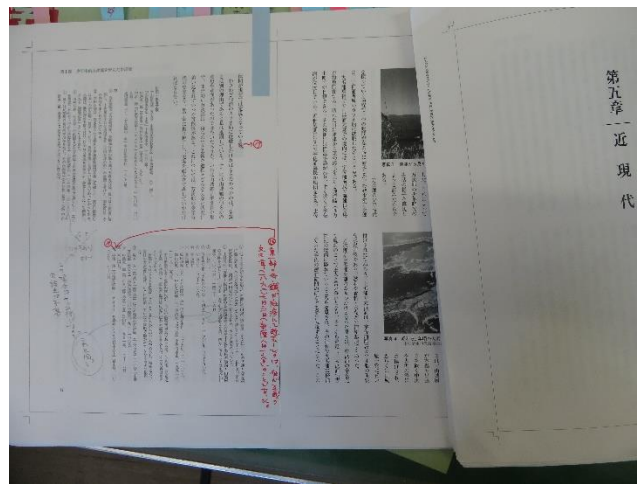
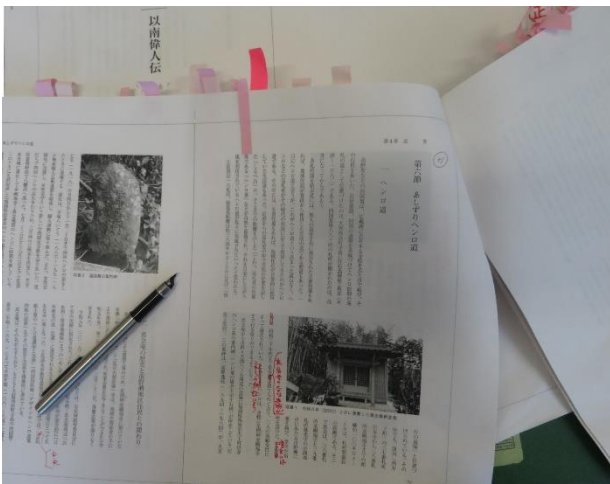
↑市野瀬地区消防屯所横の洪水記念碑



◎「第1回市史編集委員会(10月21日)」に向けて ゲラ校正作業を進める！

通史編執筆の約7割のゲラ刷りが完成し、現在、執筆者である編集委員を中心に校正作業を進めている。通史編のゲラが概ね揃ってから、執筆者以外の編集委員や監修に目を通していただこうと考えている。

資料編調査のお世話をする傍ら、第1回市史編集委員会に五校目を提出しようとして現在、校正作業を進めているところである。だいぶ文章が固まってきたように思う。慌てず、休まず、作業を進めていきたい。



○市域の近世石造物(1)

中浜小学校南側に広がる長崎台地(海岸段丘面)に袋屋(上原家)墓所が所在している。山城屋が繁栄する以前、中浜浦において、近世初期～中期にかけて栄えたのが袋屋である。

右の写真「墓碑」は、袋屋当主「上原善之丞(享保18年没・1733年)」の娘である「おきよ(1681～1700年)」の墓碑である。「おきよ」は「善之丞」の長女であり、『土佐清水市史(上巻)』によると、藩主が中浜浦袋屋屋敷を訪問したとき、「おきよ」が給仕中に粗相し、それを苦にして自害したというエピソードである(享年若干19歳)。これはあくまでも伝説にすぎず、正確な史実とは言い難い。



理由はどうあれ、娘を不憫に思う父「善之丞」は、墓地で7日間芝居を催し、浦人を見物させ、娘の供養を行ったという。時代は変われど、父親の子に対する愛情は不変である。